

かみす

Pick up

- ▶神栖市総合防災訓練
- ▶5~11歳の新型コロナワクチン接種

特集

祭頭祭

まちの魅力再発見

溝口郷 730日の歩み

AR 広報かみすが
動き出す



[COCOAR]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は14ページ

シヤートホヨトホヤア、の囃し歌。春の訪れを告げる鹿島神宮の祭典です。奈良時代の防人の「鹿島立ち」をなぞらえたと伝えられています。写真は昨年の祭頭祭で大総督を務めた山本開琉くんです。2020年、溝口郷は祭りの当番地区となりました。当番は1年をかけて準備します。しかし、コロナ禍で祭頭祭は延期に…。祭頭祭とともに溝口郷の2年間の歩みを紹介します。

大頭

鹿島大

本家

特集

祭頭祭

溝口郷 730日の歩み

溝口郷



春の訪れを告げる鹿島神宮の祭典「祭頭祭」

毎年3月9日、唯一無二の華や
ぎと賑わいで春の訪れを告げる祭
頭祭。2020年の当番字となつ
た溝口郷は、コロナ禍による延期
を乗り越えて大役を果たしました。
今回は祭頭祭をより深く知るため
に、溝口郷の取り組みとともに紹
介します。

春を告げる勇壮華麗な祭り

色鮮やかな衣装に五色のたすきを
掛け流した囃人。円陣を組んで6尺
(約1.8m)の檜の棒をガシッガシッ
と打ち合わせながら威勢よく囃し、
太鼓を打ち鳴らし、高々と掲げたば
れんを豪快に振り回し、勇壮で華や
かな行列が練り歩きます。

鹿島地方に春の訪れを告げる祭頭
祭は鹿島神宮の最大規模の祭典で、
1976年(昭和51年)に国選択無形
民俗文化財に指定されました。

その起源は、奈良時代に九州へ旅
立つ防人の「鹿島立ち」をなぞらえ
たものとされ、祭頭祭(出陣の神事)、
祭頭囃(凱旋の神事)、春季祭(卜定
の神事)からなります。現在では五
穀豊穡や天下泰平を願う祭りとして
地域に根付いており、囃子歌の「イ
ヤートホヨトホヤア」を漢字で

表すと「礼
豊穂善豊穂
弥」で、ま
さに豊穡へ
の祈りが込
められてい
ます。

祭頭祭と いうと、に

ぎやかな祭頭囃が真っ先に思い浮か
びますが、その裏ではなんと1年が
かりで準備が進められ、たくさん
の熱意が注がれています。

溝口郷、79年ぶりの決断

当番字とは、祭頭囃を奉納する大
役を担う地区のこと。鹿島神宮を中
心とした52の氏子地区から、春季祭
の卜定で毎年2地区(南北各1地区)
が選ばれます。当番字が回ってくる
のは20年から30年に一度。大変栄誉
なことですが、鹿島開発など時代と
ともに地区の戸数や人々の生活・意
識が変化し、辞退する地区も出るよ
うになりました。実は溝口も2回続
けて辞退していましたが、79年ぶり
に当番字を受けることを決断。その
思いを、溝口郷事務局次長を務めた
三宅正剛さんに聞きました。



鹿島神宮祭頭日中之図(所蔵：歴史民俗資料館)

差付状
 右方大頭
 大守溝口
 來川則年三十九
 祭頭祭當番以
 神慮卜定候事
 辛酉年三月九日
 鹿島神社
 ③



① ② 色鮮やかな衣装に身を包んだ囃人が、溝口地区を廻り祭頭囃を披露する「廻り祭頭」(2020年2月23日) ③ 2019年3月9日、溝口が当番区に選出される。この日から溝口郷の祭頭祭が始まった ④ 1年間の加護を願って執り行なう水神社での降神祭(2019年) ⑤ 大豊竹が1年間無事に育つよう注連縄を廻し幣束を立て、お神酒を注いで祈る大豊竹注連縄掛(2019年)



祭りの準備を支えた人の絆

まず溝口郷祭事委員会を立ち上げ、仲内清治さんが委員長に就任。その後、溝口の鎮守社である水神社に鹿島神宮の御分霊を迎える降神祭、大総督を務める5歳前後の男の子の選定、大豊竹の選定などの行事が続きます。さらに、ばれんや提灯など道具の準備、衣装の用意と着付けの段取り、囃人の組編成、祭頭囃の練習、寄進集めなど



三宅事務局次長



仲内委員長

「79年ぶりのため当番字を経験した人が溝口におらず、当初は辞退に傾きつつありました。でも私自身、以前から祭りこそが地域の絆の源だと感じていたので、まず20代から40代の若手に声を掛けてみたくです。誰しも仕事や家庭で忙しいのは分かるけれど、将来的に子どもたちが帰ってきたくなる溝口にするため、祭頭祭に挑戦しよう。そう訴えると、みんなが賛同してくれました。それから区長や長老の皆さんに気持ちを伝え、いよいよ動き出すことになりました」

廻り祭頭の後で突然の延期

年が明けて2020年1月18日、大総督を務める山本開琉君(6歳)が鹿島神宮に初参拝しました。続いて、2月23日には廻り祭頭を実施。これは溝口地区の神社、大総督の家、学校などを廻り、地区の皆さんに本番さながらに祭頭囃をお披露

挙げればきりがありません。「こんな準備が大変だとは思いませんでしたが、当番字の経験がある日川、萩原、奥野谷の皆さん、着付けをしてくれた皆さんなど神栖市の多くの方が支えてくださいました。また一番の難問であった資金についても、企業や他地区のご理解も得て500件を上回る寄進をいただきました。もう一つ大きな励みとなったのは、集まりを重ねるごとに溝口地区の結び付きがどんどん強くなっていくのを実感できたことです」



祭頭囃を練習する子どもたち

露目するものです。勇ましい武者姿の大総督が肩車され、大提灯、大旗、大軍配、まとい、囃人など約250人の行列を率います。囃人は老若男女さまざまで、子どもたちの元気な囃し歌も聞こえれば、大人たちの年季の入った囃し歌もあり、長い行列は見飽きることがありません。

神栖市内の地区が当番字に選ばれた年は、息栖神社へも祭頭囃を奉納する習わし



があります。その息栖神社への奉納をはじめ、1年間大切に育てた大豊竹の奉納、水神社から鹿島神宮へ御分霊をお還しする昇神祭と続き、3月9日の祭頭祭を迎えるはずでした。「息栖神社奉納のわずか2日前に、新型コロナウイルスの影響で鹿島神宮から開催自粛の要請があり、さらに3月9日の奉納も泣く泣く断念することに。鹿島神宮との協議で、あくまでも「中止」ではなく「延期」であることを強く確認し、1年間の延期を受け入れました」

三宅さんの言葉から、祭頭囃・春季祭の突然の延期という事態への驚きと落胆が伝わってきます。

コロナ禍でも気持ちを一つに

延期が決まり、大勢で集まることもままならない日が続きます。

「なかなかコロナが収まらず、第2波、第3波と続いたときは地区内に重い空気が漂いました。2度目の延期はなく、中止となってしまいうからです。そんな中で仲内委員長が、何が何でも、どんな形でも必ず溝口郷の祭頭囃を奉納しようと、みんなの気持ちを一つにまとめて引っ張ってくれました」

役員会の際は、マスク着用、消毒、換気、座席間隔など感染防止対策を徹底。さらに、参加者に対して2週間分の検温記録の提出、おそろいのマスクを作成し着用、班長と役員が消毒スプレーを携帯、打ち上げの中止などを取り決めました。

こうした努力のもと約1年ぶりに全体練習を再開し、2021年2月28日、息栖神社への奉納が実現しました。

念願かなって迎えた祭頭祭の日

そうして迎えた3月9日、祭頭祭当日は晴天に恵まれた穏やかな一日となりました。「本陣を置いた鹿島



延期から1年。息栖神社での祭頭囃(2021年2月28日)

神宮近くのホテルで、廻り祭頭と息栖神社奉納の動画をスクリーンに上映しました。集まった囃人が着付けや化粧をしてもらいながら楽しそうにしている様子を見て、丸2年かけてようやくここまでこぎつけることができたこと、感慨もひとしおでした」

午前が鹿島神宮拜殿での祭頭祭で、狩衣姿の大総督や役員などが参列。午後はルートを大幅に短縮して祭頭囃を奉納し、夕方には次の年の当番字を決める春季祭を実施。規模を縮小しながらも一連の行事を執り行ない、当番字の大役を果たすことができました。

「大総督の山本開琉君はこの2年

ですっかり成長し、当日は出陣の号令からあいさつまで立派に務めてくれました。山本家の皆さまには感謝しかありません。最年長の参加者は91歳の田仲一男さんです。練習の時から自前で軍配を作り、大きな声を出してみんなを鼓舞してくれました。どの参加者にも、家族や親戚が寄り添って応援しています。一人ひとりみんなが主役なのだ、心から感動しました」

若い世代へ、継続への願い

祭頭祭の当番字として2年間奉仕し、すべての行事を終えた今の思いを改めて三宅さんに聞きました。

「祭頭祭を通して学んだのは、人



①2021年3月9日、晴天に恵まれた鹿島神宮で祭頭祭を執り行なった ②鹿島神宮拝殿 ③大総督の重任を務めた山本開瑠くん
④1年間の延期を乗り越えて祭頭囃を奉納する溝口郷 ⑤次の世代へと受け継がれていく

のありがたみと感謝の気持ち。多くの方から託された思いは、決して忘れることができません。今の願いは、二十数年後に次の世代が祭頭祭の当番を受けやすい溝口にすることです。そのためにも、今回育まれた郷土愛を大切にしていきます。もう一つ、神栖市を背負っていく若い皆さんに伝えたいことがあります。もし皆さんの地区が当番字に決まったら、ぜひ挑戦してください。溝口が日川、萩原、奥野谷の皆さんに支えていただいたように、今度は私たちが全力でサポートします」

長い歴史を持つ祭頭祭は、古いしきたりを受け継ぎつつ、時代に合わせて変化している部分もあります。その一つが日程です。祭頭祭は3月9日のまま、祭頭囃・春季祭は多くの人が参加しやすいよう9日直後の土曜日に行なうことが新たに決められました。

地域の絆に支えられ、1000年以上も続いてきた祭頭祭。この先もずっと絶えることなく、春を告げる「イヤートホヨトホヤア」の声が響き渡りますように。

参考資料：「鹿島の祭頭祭」祭頭囃子保存会
写真：「令和三年祭頭祭記念写真集 右方大頭溝口郷」
(溝口郷祭事委員会より)